

【六月の言葉（令和二年）】

どこへ行くにも

## 「自分」と道連れ

五月から六月にかけて、不順な天候も影響してか、新しい学校や職場環境への不適應、いわゆる「五月病」と言われる症状がちらほらと見受けられます。「こんなはずではなかった。もつと他に自分にふさわしいものがあるはずだ」と。

人間は悩み、迷い、もがき苦しみます。そんな時、遠くに目を向け、遠くに理想を求めてしまいがちです。

中国の故事に「ある男が、嚴冬時に春を求めて遠方まで旅をして、疲れ果てて帰ってきたら、我が家の庭に梅の花が咲いているのを見つけ、そこに春を見つけた」という話があります。探していた世界は、自分のそばにあることを示唆しています。

私たちは一生「自分」と付き合っていかなければなりません。自分から逃げ出さず、自分をしっかり見つめ、反省を繰り返しながら「不器用でわがままな自分だけど、長年付き合ってみると結構いい奴だった」と思えたらいいですね。